

英國の新年

女高師教授 宮川 壽美



日本では大陽曆で一月一日を以て年の始めとして三十一日の夜十二時を一秒でも過ぎるとやれあけまして御日出度うよい新年でございまして逢ふ人毎に今日ばかりはどんな人でも笑ひがはでいひあひますが、英國では一月一日より六日前の二十五日耶穌基督の降誕日西曆紀元の第一日をクリスマスといひ此日が日本の元日と同じわけなので御互に御日出度うをいひ合ひまして、よいクリスマスを迎へました事を喜び合ふのです。

まあクリスマスの前夜に小供は夜寝みませす時サンタークロースが持つて来て呉れるものに祈り翌朝をまちつゝやすみます。このサンタークロースといふのはクリスマスの前夜によき子の爲めに天よ

り小供の欲する物を持ちチムネー(煙突)より降り来る爺なりと子等は信じて居るのであります。クリスマス朝起きて見ますと靴下の中や床の上の小供等の欲しがつたものが出来るだけ詰め込まれたり並べられたりして掛けてありますので小供の喜びは一通りではありませせん。

クリスマスプレゼントと云つて方々から送るものが来るこちらからも返禮をするそれからクリスマスカードといつてクリスマスのお祝状が御友達から澤山來ますが自分からも澤山出します、丁度はそれが日本の新年状です、そしてそれが何れも實用になるもの斗りであるのは大に注意すべき所です。それから各々のうちでクリスマスツリーといふものを造るので御客様が入らつしやる御友達や親類のたれかれも来る皆一しよに大人も小供も手をつなぎ輪をつくりまして卓上に立てるクリスマスツリーを圍み其常盤木の緑色なるに赤白黄また緑色の小さな蠟燭や銀紙のやうな光るもの鏡のやうに反映するもの玉の如きものやまた種々のブレセントを下げられたる美しさ木の下に冬の御花

見をして歌ひまた遊嬉し、その家の母人よりプレゼントを切りて與へられ、われも人もにこ〜と喜び合ひます。夕方になると御祝ひの御馳走、是がまた頗るたのしいもので、迎も日本の雑煮祝ひ所ではありませんまわ七面鳥のロース。御菓子は甘いおいしい蜜柑の砂糖漬か、ラン蜜で煮附けましたものをに入れてその中へ金銀貨幣の今年出来ましたものを奇麗にあらひ指環なども交へてこれをその御菓子の中にまぜて焼きましたクリスマスブツデング、さあ誰れに金貨があたりまして今年の富の瑞雲たなびくか、今度の切り目の中に指環があるのではないかと目を見はる娘もあるがとにかく愉快な賑やかなクリスマススイーブ。であります。けれども決して自分等斗りたのしみません。かならず今日クリスマスブツデングを得がたきもの、ためにつくり與へ、また小供同士集りまして假裝會をして木戸番や口上や凡て小供がしまして貧民の小供を樂しませて喜びあひます此クリスマスのお休みは十二月二十二日より一月四位までありまして大學邊の學生には十二月二十日より一月二

十日位までの長い間クリスマス、ベケーション(クリスマス休み)なのです。

まあ感心なのは此貧民の爲めに催ふす會のことで、富豪者の子弟やまた夫人が貧困者に品物を與へたりイブニング(晩)には會をひらき蓄音機や獨奏や獨唱を、きかせてたのしませてやりましやうといふので、誠に美はしいものであります一郷樂しみを共にしやうといふ母親の心や其いたします事を見聞して居る小供は自然と其心になりまして心からまけず氣になつて種々と奔走するので慈善心は知らず識らずの中に小供等の頭の中に芽を吹いて居ります。

あ、お正月になりましたよ！御天氣羽子つき毬つき紙鷲あげは出来ませが單衣の衣に春もさむいと思つて居ります小供もありましやう眞似てもよい事は眞の慈善で御座いませう。

月雪の

爲めにもしたしかどの松 (去來)